2

La lettre de Djibouti

Djibouti
×
Watanabé Yuki
×
JOCVolontaire

Djibouti(ジブチ概要)
ジブチでの「暮らし」をレポート

Activité(活動)
ジブチでの活動(仕事)のご報告。今回は、IT 環境の改善について

Actualité(時事)
最近の出来事をレポート。マラリア流行、クリスマスと正月、ソマリア沖の海賊、遊牧民、ジンベイザメ、3.11の追悼について

ジブチの都会に住むということ

Djibouti(概要)

家を一歩出れば、外国スーパー、カフェにクラブ、そして消えないイルミネーション。予想外だったジブチでの暮らしを紹介します。

右側の白い建物の4F が私の家

3分圏内にあります。日本とは違う環境であるものの、不自由のない生活でジブチ生活にも慣れてきました。そんなジブチでの生活を外国人目線でレポート。

ジブチにくる前に「ジブチには、なにもない」という言葉をよく聞きました。テレビのドキュメンタリー番組の言葉を借りれば「ジブチには石しかない」。それらの情報から、ジブチはいわゆる日本人が想像する「THE アフリカ」をイメージしていた。今となってはその「THE アフリカ」のイメージですら間違っていたが…。

カフェチェーン店

怪しく誘うクラブ。客はほぼフランス人

一晩中ライトアップされる近所の公園

現在、ジブチ共和国の首都のさらに中心街に住んでいます。家を一歩でると、「夜中までやっている売店」「朝までライトアップされる公園」「フランス人が入り浸るクラブ」「夜景が綺麗な海岸」「フランスのスーパー」、その他「郵便局」「ホテル」「スポーツ店」「ジム」「プール」が徒歩

～概要～

1. ある外国人の一日
2. 外国人の住むところ
3. ジブチで手に入る物は？

1.ある外国人の一日

現地の方の生活は、別の機会にお伝えするとして、今回は外国人を代表して私のある1日を紹介。

Bonne journée:)
よい1日を:)

6時　起床
ジブチの朝は早い。油断をすると遅刻だ。しかし、ここはジブチ。周りを見てみると、遅刻や無断欠勤は結構頻繁に起きています。早朝はバスもかなり不定期で、職場までのバスを捕まえるだけで一日の半分の体力を使います。乗れない時は、滝の様な汗をかきながら1時間程バスを探すことも…。定時に着くのはあきらめています。

7時　仕事開始
職場によって多少前後はあるがジブチでは7時−13時の6時間働く。私の職場も7時から始まり、授業を3コマ13時まで行なう。しかし、6時間という短い時間では、授業の補助と、学生の質疑応答をしていると、十分な仕事はできないため大体15時過ぎまで残業をするはめに。

15時　昼ご飯／シエスタ or 事務作業
食事は自炊。食後は昼寝（夏場のみ）。乾季は30度弱程度まで涼しくなる為、昼寝はせずに自宅で事務作業をします。ジブチ程の暑さになると生産性は著しく落ちます。去年の夏場は昼寝をしないと体力が持ちませんでした。

16時　現職以外の活動 or 地域コミュニティーへ参加
日によって異なります。ジブチ卓球協会の練習に参加したり、地元の若者と色々な活動をしたり、在ジブチ邦人の方々とテニスを楽しんだりします。それ以外はせっせと仕事の準備や事務作業。今後は、午後に IT のテクニカルクラスを開講予定。

18時30分　フランス語教室
週に3回の1回2時間のフランス語学校に通っています。40時間約300ドルと高額だが自己投資。授業では主に、文法の復習と簡単なプレゼンやディスカッションをしています。

21時　ランニング／夜ごはん／事務作業
食事は自炊。食前には運動を。大体10km 弱を1時間程度で走ります。海が近いということもあり、自宅周辺のランニングコースは日々のストレスを忘れさせてくれます。機会があれば紹介したいものの1つです。

24時　就寝
夏場はここからが本当の戦い。昼間に熱を吸収した壁やベッドから放熱される暑さの為になかなか眠れません。ベッドは本当にホットカーペット。凍った2L のペットボトルを数本抱いて寝たり、水に浸した服をきたり、比較的温度の低い石の床で寝たりして、努力しますが、寝付けません。私の対策はひたすら体を疲れさせること。寝る為に、体を酷使する毎日です。

2.外国人の住むところ

外国人がジブチ（アフリカ）で生活するには、最低限の安全が求められます。基準は塀や各窓の鉄格子、施錠、警備員の有無です。警備員は24時間365日体制で働いてくれています。

上：リビング兼寝室
左下：バスルーム
中央下：トイレ
右下：キッチン

間取りは2K から4DK が一般的。1人暮らしであっても、ある程度の安全性を求めると部屋の数や質が自然とよくなります（写真は私の家で間取り1K）。アフリカで心配するのは生活インフラですが、首都の物件では困ることはあまりありません。水道は大きなタンクを使用しており、断水時も問題なく使えます。またタンクが空の場合は、給水サービス（1タンク30ドル程度）を受けられます。停電時は、自家発電に自動的に切り替わりますが、切り替わる際は、瞬断するので PC には UPS（無停電電源装置）が必須です。暑さ対策のクーラーも大抵ついています（電気代が高いので一度も使ったことありません）。インターネットは最大1Mbps で月 85ドル。高い…。ちなみに VoIP 接続（Skype など IP 電話）の制限付き。理由はもちろん通信会社の電話代の収入が減るからだそうです。

3.ジブチで手に入る物は？

異国に住むときに気になるのが、「何が手にはいるのか」。ジブチに来る時、荷物の重量を抑える為に醤油を持っていこうか悩みました。（醤油はジブチでも容易に手に入る物でした。）ジブチでは何が出に入り、何が手に入らなくて困るのか簡単にレポートします。

雪見大福は15ドル

【食料品】
　ジブチの食料品、特に野菜は時期によって品揃えの良さが全く変わります。毎日50度弱になる雨期は、たまねぎ、にんにく、ジャガイモ、そしてトマトがメイン。時々その他の野菜も見かけます。

ただ、全ての野菜達は弱り切っています。味も悪く食べ応えもない。ジブチについて数時間で死んだ野菜になってしまうようです。30度前後になる乾季は、比較的色々な野菜が手に入ります。雨期の野菜に加え、レタス、白菜、なす、ネギ、キュウリ、アボカド、オクラに大根など。野菜類はエチオピアから輸入しています。野菜以外にも肉（豚肉も）や魚介、果物、調味料、缶詰、冷凍食品、穀物、一通り揃います。1977年までフランス領であり、現在も仏軍関係者等の在

ジブチにあるフランスのスーパーマーケット「casino」。1年を通して比較的なんでも揃う

留仏人が多いため、フランスで扱っている食品は比較的揃っているようです。フランスパンも安く15US セント程度でバゲット1本買えるため、現地の方の主食となっています。
貿易のハブ的役割を担っているジブチでは、外国製品が手に入りやすく、野菜も含めお金さえ出せば、欲しい物は手に入れることができます。しかし、高額。私の生活費では気軽に買うことが出来ないのが現状です。

【日用雑貨】
　フランスやアラブからの商品が揃っています。製品の品質がそれほどよくなく、長持ちしないようです。セロテープなどは貼った直後にはがれてきます。日本の100円ショップの商品の方が品質はいいものが多いように感じます。

【衣料】

衣料品は安物や有名ブランドのコピー衣料品が街中に溢れています。質の良いスーツや革靴も揃いますが、高額で品質は低い傾向にあると思います。ジブチでいいスーツを着ている人は、外国（主にアラブ）で買っていることが多いです。ブランドショップはほとんどなく、私の知る限り「UNITED COLORS OF BENETTON」しかありません。日本人の価値観での「良い服」を見つけるのは難しいでしょう。

数少ないブランドショップ「UNITED COLORS OF BENETTON」

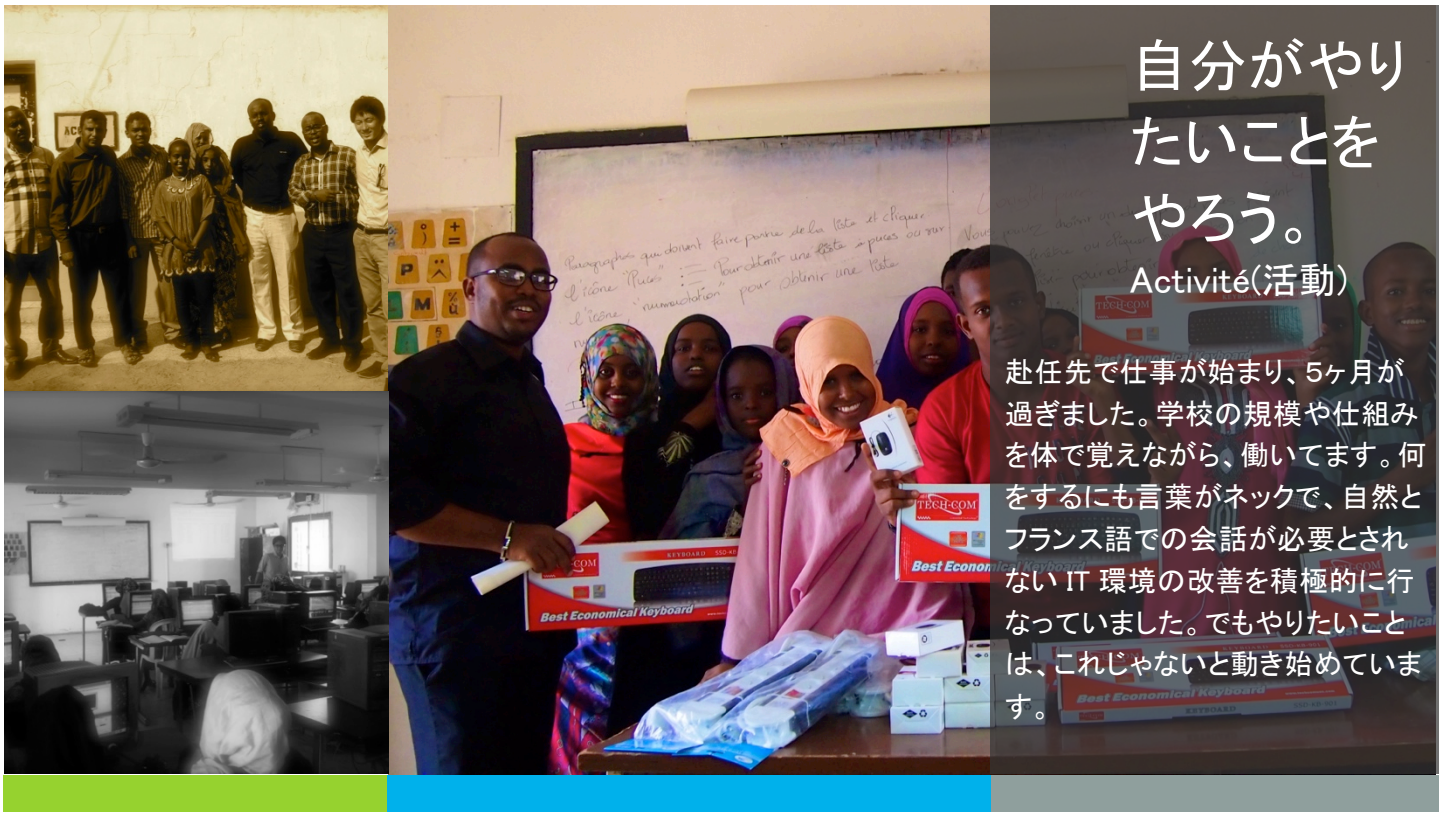
【薬】
　街中にはいくつか薬局があります。病院で点滴やワクチンなど注射をうつ場合も薬局で購入してから病院で打ってもらいます。日常では、虫除けスプレーやマラリアの薬などを主に購入します。

【IT 機器】
　探せば周辺機器や各パーツは揃いますが、古いパーツであったり、日本より高かったりします。最近4G＊2のメモリ（DDR3　668hz）や、ミニディスプレー—AVG 変換コードを探しましたが、見つかりませんでした。結局日本で購入し、郵送しました。ある程度の商品は見つけることができるものの、品質とコスト面ではあまりよくない状況です。また、windows 関連の製品がほとんどで、mac 関連の製品は見つけることは更に難しいでしょう。

【日本のもの】
　街中で日本ブランドのものを良く見かけます。最初に目に留まるのが、車。ジブチで走っている車のほとんどがトヨタや三菱です。次にパソコン関連で、日本製のほとんどが東芝です。他の日本勢はほとんど見かけません。

前を走るトヨタと三菱

食料品では、醤油、わさび、インスタントみそ汁、だし、天ぷら粉、キューピーマヨネーズ、そして蕎麦などを見つけました。扱いのない食料品も自宅やお店独自に作っていることがあるので、探りを入れてみるのも手。私の周りでは、こんにゃくや豆腐を作っている人達がいます。



赴任後に行なっていた仕事は、修理と修理と修理。いくつかある配属先の要請のうち優先度の高い要請が IT 環境の構築でした。職場では PC 故障に関して、いくつも問題（下記参照）があり、常に PC の修理が必要となる状況でした。対処を怠ると、すぐに PC が足りなくなり、生徒達は複数人で1台を使うことになります。職業訓練センターである為、仕事に直結した実習をメインで教えています。そのため、PC に触れる時間を確保できないのは致命的です。

【メンテナンス対応報告】

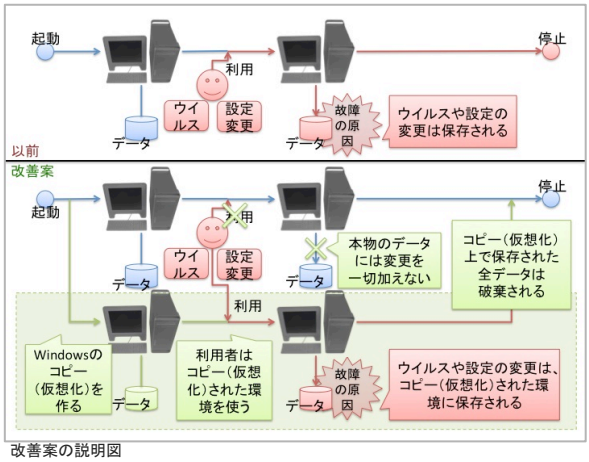
現在職場には27台の PC があり、当初、利用可能な PC は27台中15台のみ（生徒は最大27人）。故障の度に修理していては、無駄に時間を浪費するだけなので、根本原因の改善を目標としました。故障の原因は大きく以下の通り。（発生頻度の高い順）

1. ウイルス感染
2. 学生による設定などの変更
3. 学生による盗難
4. 部品の老朽化
5. 45度を超える熱
6. 砂やホコリによる熱暴走
7. 電圧の不安定

（1）（2）について

ジブチでは、コンピュータウイルスが蔓延しています。私の経験上、ジブチにある PC、USB の90%がウイルスに感染しているようで、故障の大きな原因となっています。（在ジブチ外国人も同じ状況）。また、「必要なアプリを削除」や「管理者パスワードの設定（設定後、忘れる）」など、生徒が勝手に設定変更してしまうといった問題も頻繁に発生しています。

以前は、PC に不具合が発生した場合、考えるまでもなく再インストールをしていたようです。設定もデフォルトの状態でした。再インストールの頻度が週に2、3回と頻繁に発生することや、現地の方の労働時間の短さや就労意欲を考えると、初期設定や再発防止に時間をかけられないのも少し納得いきます。しかし、このままメンテナンスに時間を取られるわけにもいかないので、改善を提案。提案内容は、「起動の度に、OS を初期設定の状態に戻す仕組みを導入する」というもの（上記、「改善案の説明図」参考）。導入自体はマンパワーでなんとかなりますが、ここでの課題は、PC の性能。上記の説明図の通り windows のコピーを正常に動かすには、職場の PC は性能が低すぎました。



改善案の説明図

生徒が使用している主な PC	
CPU	AMD semp processor 2800+
メモリ	256M
HDD	10G、40G

性能が低い為、windows XP SP3 以降は重すぎて実習では使えません。windows XP SP2を導入し、如何に軽いウイルス対策ソフトを適応させるかの試行錯誤でした。windowsXP にはサポート切れの問題が残っていますが、結果としてはうまくいきました。2ヶ月間ソフト面での故障も0となったので、後は私の同僚以外の教師、生徒にもこの方法を伝搬していくフェーズとなります。

（3）について

周辺機器の盗難は後を絶ちません。故障による周辺機器不足に加え、窃盗（基本 USB マウス、月平均2、3個程度）が多発すると、パソコン本体を修理して動かせる状態にしても、実習で使えません。ということで、結束バンドでガッチリ固定。ダイヤル式の鍵があればベストですが、予算的に無理でした。効果はてき面、盗難0です。（盗みにくくするのが、大事です。）

（4）（5）（6）（7）について

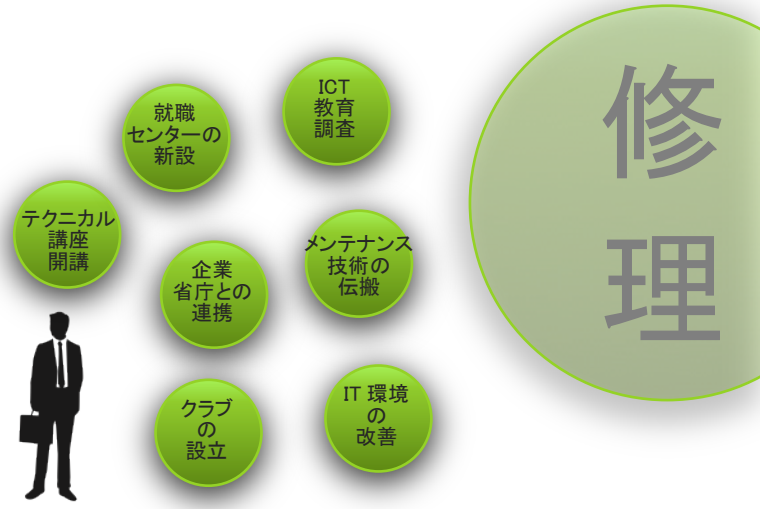
ジブチでの部品や設置環境状態はよくありません。（4）パーツは10年以上前のもの、（5）気温は毎日45度以上も指し各パーツの温度を上げ、（6）ハムシーンと呼ばれる砂嵐や、5S（整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）の教育が皆無なので、ゴミで荒れ、パソコンの放熱を妨げ、更には（7）電圧の不安定さや停電などによる瞬断で、電源ユニットは過酷な状況にあります。クーラーや電源安定パーツ（UPS、スタビライザー）の設置など対応方法はもちろんありますが、予算の関係上なかなか改善できません。位置を変え、地道に PC を掃除、メンテナンスし、関係者及び清掃員に改善要求するくらいが今できていることです。目に見えた結果はありませんが、比較的ハード面での故障も減っている気がします。今後の経過を見守っていきます。

【メンテナンス対応状況一覧】

原因／対策	対応策	対応状況
（1）ウイルス	ウイルスソフトの導入	済
	各種アップデートの実施	済（適宜実施）
	OS の仮想化	済
	セキュリティ講座実施	未検討
（2）設定変更	生徒用アカウント作成	済
	管理者権限の設定	済
	OS の仮想化	済
（3）盗難	周辺機器の施錠	済 （ただし、結束バンド）
	盗難された機器の購入	済 （日本からの贈与）
（4）老朽化	買い替え	申請のみ実施 （希望薄）
（5）気温	クーラーの設置	済
	放熱パーツの購入	未検討
	PC 内部の掃除	済 （適宜実施）
	シリコングリスの確認	済
（6）砂埃	パソコンを床から離す	済
	窓を常時閉める	済 （適宜実施）
	PC 内部の掃除	済 （適宜実施）
	教室の5S 教育	未実施
（7）電圧	UPS の設置	申請のみ実施 （希望薄）
	スタビライザーの設置	申請のみ実施 （希望薄）
	たこ足配線の見直し	未

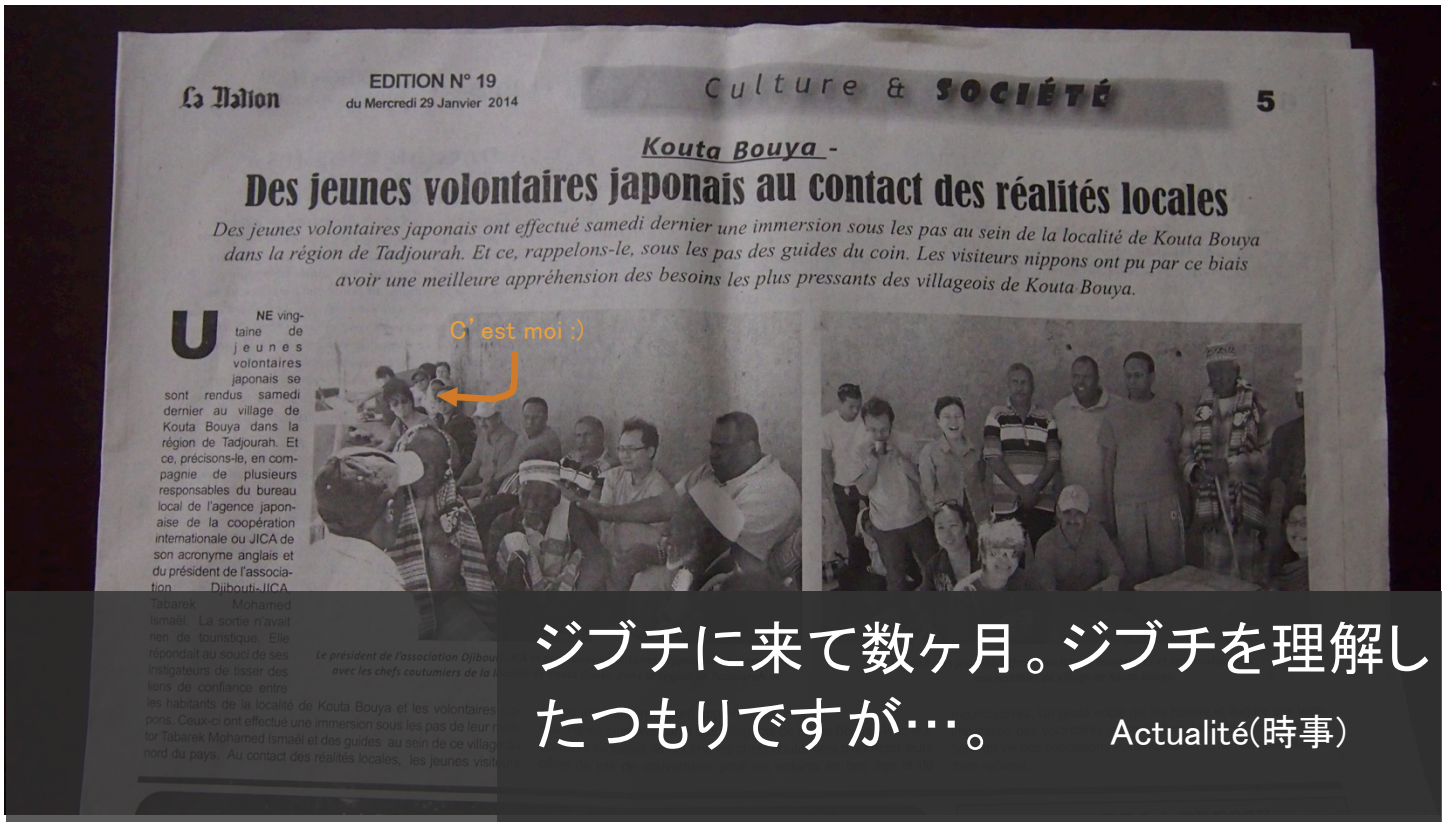
【まとめ】

各問題点を少しずつ対処していった結果、現在利用可能な PC25台のセットアップが終わり、効果も見えてきました。セットアップから約2ヶ月程度ですが、ソフト面での故障が発生しなくなり、盗難も0になり、その他環境も掃除等で少しは改善しました。ジブチに来た当初はハード面での故障は月5台前後、ソフト面は12台前後の故障があり、平均すると1台あたり2、3時間かけて修理していましたが、本対応により月51時間（約9日）の改善となりました。改善の結果、できた時間を利用し、次のステップである技術伝搬の準備の時間を行なっている最中です。当初より考えていた活動の指針の1つの「根本問題の改善」を少しは実施できていると実感しています。この実例をバネにジブチの IT 環境問題の改善が進むことを願っています。



改善、効率化は職を奪う？

職場での出来事。ジブチでは清潔に保つ意識があまりないように感じます。事実、街中ではゴミをそこら中に捨てます。教室でもゴミを捨て、机とイスは元に戻しません。ホコリも多く、PC の環境によくありません。意識の改善をしたいと考え、副校長に「生徒達に5S を教えていきたい、ゴミ箱や掃除道具すらないので、ほうきを用意できないか」と相談すると、「雇っている掃除係がいる。彼女の仕事を奪うのか？」と強い口調で返されました。改善、効率化を計ることで、その「仕事」はなくなるかもしれないが、改善、効率化の恩恵で新たな仕事が生まれているのも事実です。掃除係の彼女は生徒達ができないようなプロフェッショナルな清掃を提供すればいいと考えていました。しかし、相手の立ち場になって考えると、「職を奪う」という認識は納得できます。自分たちのやり方の押し付けや、周囲を見ない改善や効率化は、善意や結果があっても「悪」になりうる。話しの仕方が十分ではないのもあるが、それ以前に関係する人達に目を向けるべきとだと再認識させられました。



ジブチに来て数ヶ月。ジブチを理解したつもりですが…。

Actualité(時事)

半年以上住んでみて感じたことは、半年以上住んでも、なかなか現地のことを理解できないということ。2、3ヶ月たった頃は、生活にもなれ現地の生活を知っているつもりになりましたが、やはり外国人とジブチ人の生活や価値観には違いがある。ジブチについて説明しようと思っても、詳しい内容や背景を知らない事も本当に多い。色々経験しながらもう一歩深くアフリカを、ジブチを知ろうと日々奮闘しています。というわけで、ここ数ヶ月に起こった出来事やイベントを少しお伝えします。

マラリアの流行

私の飲んでいる薬「Dixycycline」

マラリアという死に至る感染症を知っていますか？死を免れても脳神経の損傷で歩行困難になったり、血小板の減少で血が止まらなくなったりすることを知っていますか？ジブチでは去年の2013年1月頃からマラリアが発生し始めました。マラリアの原因である、マラリア原虫を持っているハマダラ蚊がジブチに住みついてしまったらしい。2013年～2014年の乾季も9月から流行の兆しが見え始め、12月に再燃しマラリア罹患者数が増加（120人以上）しました。直近の1週間では300名以上の感染者の増加が確認され、1月の罹患者数は849名にもなっています。（※いずれも首都のジブチ市のみの数字で市外でも感染者は確認されています）
マラリアの発生する時期は、熱が出た場合、すぐに医者にかかり迅速な抗マラリア薬の服用が重要となります（マラリア発症時の主な症状：高熱、嘔吐、下痢、大量の発汗、食欲不振、ピークを超えると大量の汗をかき体温が急速に下がる、頻尿、意識が朦朧となる）。これらの症状が繰り返し起こり、重症化していきます。特に後遺症や死に至りやすい熱帯熱マラリアという種類は、脳性マラリア等の合併症が非常に危険とされています。
対策は、防蚊対策と予防薬とされており、私もこの2つを行なっています。予防薬には鬱の精神的副作用があるものもあるため、どの薬が自分にあっているか見極めは重要です。
私は、ドキシサイクリンという薬を毎日服用していますが、この薬の副作用である吐き気や日光過敏症（強い日差しでひどいやけどになる）は、幸いなことに起こっていません。
マラリアが流行している国に行く場合は、適切な情報を得た上で、何かしらの対策を取ることが大切です。

クリスマスと年越しとイスラム正月

ジブチに来て初めて、クリスマスと正月を過ごしました。イスラム教徒が9割以上のジブチでは、クリスマスは祝わないそうです。しかし街のスーパーには外国人向けなのかクリスマスグッズ（ツリーやデコレー

ホストファミリーの家のクリスマスディナー

ショングッズ）が販売されていました。クリスマス当日は、赴任時にホームスティしたホストファミリーがフランスからの友人を招いてパーティーをするということで、お邪魔しにいきました。ホストファミリーはイスラム教徒、友人が来なければ祝わないそうなので、ジブチの方は他宗教に比較的寛大なのではないでしょうか。ちなみに、イスラム教にもクリスマスに該当する特別な日があります。2014年1月14日の予言者ムハンマドの誕生日です。

イスラムの正月は日本の正月と日にちが異なります。そのため、2014年1月1日は特に何もありませんでした。イスラム正月は、ラマダン（断食月）明けのイード。当日は、生きている山羊を一頭購入して、その日のうちに調理し、家族や訪問者に振る舞います。ジブチでも日本の正月と同じように、挨拶回りをして、お互いの近況を伝え合います。

これから調理される山羊

海賊がいる理由

ジブチと言えば、自衛隊初の海外拠点として日本のニュースでも取り上げられました。自衛隊の目的は、ソマリア沖アデン湾の海賊対策となっています。海賊の事件が目立つ中、2013年11月10日から5日間「海賊対策週間」という海賊対策に関する大規模な国際会議も行なわれました。ソマリア沖を避け、アフリカの南端を回れば、日数や燃料費がかかるため、経済的な理由からソマリア沖のルートは避けられず、世界的に大きな問題とされてきました。海賊の活動が活発になったのは、1991年にソマリアの内戦が始まった頃からです。無政府状態は現在まで続いており、外国からの不法な船舶による放射性物質を含んだ産業廃棄物の廃棄や領海侵犯をして魚を乱獲することなどが起こりました。その結果、漁獲量も減り、無政府状態であるため、国内需要がなかった魚の海外輸出も困難となりました。こうしたなか漁師達が武器を取り漁場の防衛を始め、職がなくなった一部の漁師が、生きる為に「海賊」となったと言われています。一方で、高速船の使用や、武装の程度、訓練状況から漁師とはかけ離れたものとも言われ、最初から武装集団が始めたとも言われています。どちらにしても、無政府状態での取り締まりができないことや貧困が原因となっています。現在、各船の自衛措置や自衛隊を始め各国の軍の海賊対処活動により、アデン湾における海賊発生率は昨今大幅に減少しています。しかし、対症療法的な対応だけでなく、海賊が発生することとなった原因そのものの対処が必要なのです。法治国家の再建、経済の立て直し、そして教育などそれらを正常に稼働させていくことが大切ではないでしょうか。

海賊対策の任にあたる自衛隊の護衛艦「さざなみ」「さみだれ」

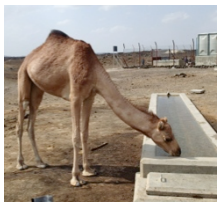
ラクダと生きる遊牧民

トイレ（小）中のラクダ達

ジブチは遊牧民の国。国土のほとんどが不毛の地であり、首都以外に住むジブチ人の8割は遊牧民と言われています。ラクダと共にジブチの資源でもある「塩」を運び、山羊等を放牧し、限りある水や牧草を求めて転々と移動します。私も2014年2月14日から3日間、遊牧民のような旅をしました。目的地のアベ湖まで歩いていくというもの。メンバーの構成は、コーティネーター兼ガイドが1人、ラクダ使いが2人、料理人が1人、そして私たち外国人です。水などの荷物は本来塩を運ぶ役目のラクダに持ってもらい、歌いながら道なき道をひたすら歩きました。このツアーは外国人が観光目的で使用するもので、水や食事、寝床（ござを敷くだけ）は現地のガイドたちが用意してくれます。トイレもなく、寝る場所も野晒し、風呂はもちろんありませんでした。しかし、私は観光として参加していたので、辛い移動や引き連れた子ヤギを殺して食べること、熟睡できない寝床も全て良い経験となりました。しかし、これを生活としている人がいるとふと気付いた瞬間、観光気分な自分は外国人なのだと痛感しました。

遊牧民の家

ガイドから現地の人に古着をあげようとの提案。この子には、なぜかあったブルマをあげる

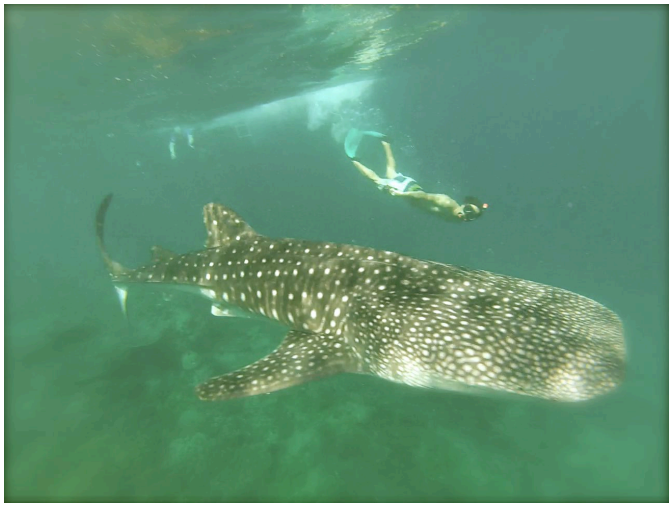

日本の支援で作られた水道施設の水を飲むラクダ

国際セミマラソン大会

2014年3月14日にジブチ最大のマラソン大会（ハーフマラソン）が開催されました。参加者は400人強、東アフリカで有名な国際大会である為、アフリカを始め、欧米も含め多くの国籍の方々が参加していました。噂では、あの陸上の世界大会でも優勝(1500m)しているジブチのスレイマンも参加したそうです。日本からは私、そして自衛隊の方々が参加しました。結果は、1位ジブチ、2位エチオピア、3位タンザニア、120位私となっています。

スタート地点

ジンベイザメと泳げる海



ジンベイザメと泳ぐ

11月から2月はジブチのジンベイザメシーズン。ジブチ市の隣にあるアルタ市の沿岸には、多くのプランクトンが発生しており、それを目当てに多くのジンベイザメが来ジブチします。

特に、アルタ沿岸のあるジンベイウォッチポイントには、水深5m程度の浅瀬までジンベイザメがきてくれるので、シュノーケリングでジンベイザメと一緒に泳ぐことができます。その距離は数センチになることも（ジンベイザメの5m以内に近づくことは禁止されています）。

ジブチに来るジンベイザメの平均体長は4-7mで、大きい物だと10mとも言われています。またポイントというだけあり、4、5匹のジンベイザメが固まって泳いでいたりするので、迫力満点です。主食はプランクトンや小魚なので、人間が食べられる心配はありませんが、目の前で大きな口を開けられるとパニックになるほど恐ろしいです。ポイントまで行くには、ホテル等についている旅行会社のツアーに申し込むか、小さな漁船を1日借りるかとなります。ポイント周辺には、珊瑚礁がたくさんあり魚も豊富、シュノーケリングには最適な海がたくさんあるのもジブチの魅力だと思います。何もないと言われていたジブチですが、海洋資源も含め観光資源は豊富にあり、そしてジブチ国内は犯罪も比較的少ない為、旅行先候補としてみるのもいいと思います。ただし、夏期は50度を超す暑さに体力が奪われ、ほとんど活動出来なくなります。涼しく、ジンベイザメのいる冬期がオススメ。

大きな口でプランクトンを食べるジンベイザ

3.11追悼

震災がおこってから3年、日本や各国で追悼が行なわれている中、ジブチでも、追悼式典が行なわれました。

場所は日本の支援で作られた幹線道路の起点である「PlaceTokyo（東京広場）」。多くのジブチの方々も参加してくれました。震災の追悼、遠く離れたジブチと日本の絆を記念して「絆Tシャツ」と、記念碑、そして花が用意されました。式典では、黙祷とモリンガ等の苗木の植樹を行い、震災でなくなられた方の冥福と早期復興を祈りました。

出席者された方々と

ご意見等ございましたら、ご連絡ください。

Yuki Watanabé
Email : yuki.w.tokyo@gmail.com

Yuki Watanabé